

74新破天荒



令和四年度より
創刊
第7号

第一志望は譲れない
だが本気で第一志望と
悩むのは客が見えるから
客を現実にする苦しみ
想いは勇らせる以上に
思いに向かっ
もがく客を現実化しよう

本当の闘いはここからです。この期間、この量で結果が出るような、そんな甘い闘いではないことは分かっていますよね。でも、答えを欲しがってしまいます。

今までの中で

一番あんなにやったのに

この気持ちは自分の本当の力を消してしまいます。折角積み上げることができた学習時間や、自分が目指す進路への意欲を、継続し続けることができるように、しつこく、粘り強く、本当のエネルギーを引き出すことができるようにしましょう。

人生すべからず

夢なくしてはかないません

明石海峡大橋夢レンズより

原口忠治郎元神戸市長

どうぞ皆さん、自分の

『真の夢』

を信じ続け、『真の努力』を続けましょう。意思あるところ、必ず道は続きます。たとえその道が太くなったり、細くなったり、ヘアピンカーブになったり、迷い道になろうとも。

自分を信 じろ!!

早くに進路が
確定した人に

まずは卒業するまで、自分がお世話になった場所や方々に恩返しをしてほしいと思います。

清掃活動やボランティア活動、部活動の手伝いなど、学習以外でも何でも構いません。自分を成長させてくれた物や事柄、場面は、あなたたちの生活の基本習慣で力を発揮させてくれていました。

そんな繋がりにしつかり気付いて、残された南高生活で残された時間、後輩たちにしつかり引き継いでいってほしいものです。

ところで、進学先決定はあなたの人生にとってはゴールなのでしょう。本当は、自分の歩む人生にとつて、真の意味でのスタートであつて、その道で自分以外の多くの物や事を背負ううえで、まだまだ自分を鍛える途中のはずなのですが。

人生一〇〇年時代と叫ばれる中で、「やり甲斐」をどう感じながら、皆さんは自分の道を歩んでいくのでしょうか。

他人が出しやばる話ではないですが、「後悔」や「やり残し」を感じる事が本当にならないように、自分自身を

安く見積もらない

でいてほしいと思うばかりです。

指定校推薦利用者を名指しするわけではないのですが、入り口での負担が小さくなった分、そのことで手にした時間をどう使うか？

時に、進路が決まったような態度の変化、授業中の無機質な姿への変化、無断アルバイトや自動車教習所入所等の発覚や、欠席日数の増加など、教師生活の中で指定校推薦選抜入試の在り方を思うことが何度もありました。

CMではありませんが、

「そこに〇〇はあるんか？」

という生徒の姿が増えていくことがないように、多くてもあと五回ほどの「私の独り言」が発行できれば有り難い限りです。

急ぎの連絡です

今後の模試連絡です。

十月記述模試

- ・就職、公務員、専門学校進学を希望する生徒は、これ以降の模試は受験免除となります。
- ・大学、短大進学希望者については、合格証書を担任に申し出た生徒は、免除となります。

未受験者は、十四日(月)に実施します。

十月末に実施予定のマーク模試についても、前述と同様の扱いとします。

なお、受験料の返金については、卒業時に各個人の口座に返金させていただきます。ご理解下さい。

二学期も早や一ヶ月が過ぎました。二学期早々に実施された九月マーク模試の自己採点を入力する中で、多くの生徒は世の受験生らしく受験勉強の時間を有意義に過ごすことができたような雰囲気を感じさせてくれました。

一方で、一学期に頑張った成績を得たことに安堵して、というよりも、三年生の成績の全てをかけたという、夏休みがすっかり空洞になってしまった生徒も結構いるようです。

合計点が上がった生徒が頑張ったというわけではなく、文系にとっては理数系科目、理系にとっては語学系科目に、夏休みに取り組んだ受験勉強の一つの答えを見て取れるのではないかと思います。

十月の予定

- 一 日(火) 体育大会
- 二 日(水) 体育大会(予備日)
- 四 日(金) 生徒会各種委員会
- 五 日(土) 進研記述模試
- 六 日(日) 創立記念日
- 九 日(水) 教育相談
- 十三日(日) 全統模試(記述)校外・希望者
- 十四日(月) スポーツの日
- 十六〜二十一日(水)〜(月) 中間考査
- 二十日(日) 全統共通テスト模試
- 二十六〜二十七日(土)〜(日) 進研マーク模試
- 二十九日(火) 教育相談

十一月の予定

- 三 日(日) 文化の日
- 四 日(月) 振替休日
- 五 日(火) 兵庫県津波一斉避難訓練
- 十二日(火) 教育相談
- 十七日(日) 全統共通プレテスト模試
- 二十三日(土) 勤労感謝の日
- 二十五日(月) 芸術鑑賞会
- 二十七日(水) 教育相談
- 二十八〜十二月四日(木)〜(水) 二学期期末考査

十一月の予定は、変更の可能性もあります。際になつての連絡、申し訳ありません。

何を面接指導してもらいたいのかが
何を小論文指導してもらいたいのかが

面接指導を申し出る生徒の多くは、所作の練習に終始する人もいます。各授業の最初と最後には必ずお辞儀をし、挨拶をする場面があります。なのに、これらを再度練習する必要って「何？」なのでしょ。なりたくて、行きたくて、だから学びたくて先行して総合選抜型や学校推薦入試の機会を活かそうとしていのに、志望理由に「自分の想い」が見えないって「何？」なのでしょう。

綺麗な言葉だが「意味不明で抽象的な」言葉の羅列より、たどたどしくも「その人の想い、姿」が浮かぶ言葉には、強いパワーと興味が相手に伝わっていきます。

自分の想いを整えていったり、こんなことを学ぶ必要があるということ伝えることが面接練習だと思えます。

小論文もそう。その表現の仕方を整えたり、相手に伝わるための技法を自分の文章に与えてもらうのが指導であると思います。

逆に、文章自身がびっくりするくらい整っているものも最近では多くあります。私の経験上、南高の生徒は文章表現は比較的上手であるとは思いますが、そんな中でも上手すぎる。疑い出したら切りがないのですが、どれぐらいの時間をかけて書いたものか、或いは……。

いずれにしても、文章の内容を問われたときに自分の言葉で、相手に想いを伝えることができるものであつてほしいと思います。

体育大会を終えて

配布の日付に従えば、本日体育大会真っ只中ということになります。

昨年度は、度重なる延期のお陰で久しぶりに学校での開催となり、逆に新鮮なものでした。いつの間にか『便利』に馴れて、私たち教員もまた『お客様』感覚で体育大会をやり過ごしていたかもしれません。準備が二転三転の中でしたが、私のような昔人間にとっては、本当に懐かしくて「微笑ましい」行事となつたことを、今振り返っています。

さあ、『未来予想図』的に想像している今年の体育大会はどんな盛り上がりになっているでしょう。運動が得意な人も苦手な人も、ダンスが得意な人も苦手な人も、

『我が団』

の為に何か貢献できた、参加できた体育大会だったことを信じておきたいと思えます。

結果詳細は、次号でできればと思います。公式な学年通信『破天荒』では表しきれないので、付録の『主任の独り言』の方になるとは思いますが、生徒の活躍した様子が数多く紹介できることを期待しておきたいものです。

南高七十四回生にとって、最後の体育大会が多くの想い出とともに、きっと盛会のうちに終わったものとなつたことを、予測とともに報告します。

ひよっとしたら、何人かは小さな怪我をしたかも知れませんが、これも「三年生あるある」というレベルだとしておきます。

七十四回生の現状

二学期も早一ヶ月が過ぎましたが、まずは出席の状況については落ち着いているように思います。多少疲労感を感じさせる生徒も増えては来ていますが、この一ヶ月に関しては、私が考える「安易な欠席」は少なかったのではないのでしょうか。

昔と違い、「多少の熱でも」学校に行くことが許される時代でもないし、その「頑張り」を「新種の困難」により、妨げられた集団でもあるので、その点では「姫路南高校」に行動の拠点を置いて、活動心がけてくれているように思います。

受験科目に絞り込んで、先生の目を「気にし」ながら教室に存在する生徒も多くなはない、と言うよりも、どちらかと言えば「今まで通り」の雰囲気授業が為されている気がします。

受験希望校の「赤本」を持って、「赤本」の問題を質問に来て、と言う姿もちらほら。

ただ、家庭学習の様子がもう少し見えればというものも正直な気持ちです。学校で購入したものは違ふ参考書、授業の隙間で聞こえる会話、与えられた自由時間での様子に、もう少しずつ、「今」の自分の主体性が浮かんでくることは期待したいものです。

今月の勇氣

九月初旬に、前任校の卒業生から「東京工業大学 生命理工学院(東京工業大学の大学院)に合格して、来年の四月から進学するとの連絡をもらいました。

「ただでなく、この年の卒業生は、あの『新型コロナウイルス禍』で多くの行動制限、学校での授業を奪われる中、短かった夏休み以降に「休日学ぼうクラブ」なるものを作って、距離を保ち暑さ寒さに耐えながら、学びを共有した『戦友達』の一人です。

高校一年の冬に、大阪大学進学を志し、一心不乱に頑張ってくれました。前期九州大学、中期は京都工芸繊維大学、後期大阪府立大学に申しました。

結果としては自分が最初に希望した大学進学を手にすることができませんでした。全てを終えて京都工芸繊維大学への進学が確定したときに、爽やかな笑顔とともに「とても楽しい、他に経験することができない一年だった」と報告してくれたことは忘れられません。

本校にも、二度三度会いに来てくれました。その度に進学先での新たな「学び」の話を力強く話してくれました。

目指すものがあり、それに向かって積み重ねた努力があり、その上で自分を活かすべく進んだ道だからこそ、そんなエネルギーを持ち続けているのだと。

ひよっとしたら、私は「草葉の陰にいる」頃にはスウェーデンで盛大に表彰されていたりして。そんな甘いものではないが、いつかそれでも「所ジョージ賞」くらいはもらえるような研究をしてくれたら嬉しいものです。

中旬には、幾人かの生徒、卒業生やその家族、近畿大会中にもかかわらず顧問仲間、同僚から、私の「〇〇回目の誕生日」を祝ってくれるメッセージや

唄を頂きました。

いまの情報化社会では、いろんな所から個人情報伝わる可能性への驚きと、逆のその怖さも感じました。ただ本心は、幾つになっても嬉しいものです。文字、音、姿、言葉、デジタルにしろ、アナログにしろ、人の心を揺さぶる行動に出会えたことが一番感謝することなのでしょう。

一つ気になっているのは、上記の卒業生と同級生で生徒会長だった生徒が、兵庫県の教員採用試験が駄目だったが、鳥取県の小学校教員採用試験の発表の日が私の誕生日だと、彼がアルバイトをしていた飲食店で本人から聞いていました。その後、その飲食店には行っていませんが、来月の「今月の勇氣」で、もし良い報告ができるの良いなあと思います。

こんなことが紹介できるのも、該当者が私に声をかける勇氣を持って、連絡する勇氣やその意義を感じて行動してくれていることを誇りに思いたいと思います。

初旬、中旬と来れば下旬ですね。これもまたあり。神様は悪戯好きなのか、意地悪なのか、はたまた私自身が「今の考えを変える」勇氣を持つべきなのか。来年春から、新たに兵庫での教員仲間が二人増える連絡をもらいました。

一人は昨年あなた達もお世話になった先生であり、もう一人はこれまた上記の学年の生徒でした。ともに地歴公民科、今後の活躍を期待したいと思います。

今月の

〇〇〇〇の勧め

一月	「無駄」
二月	「諦めない」
三月	「捨てる」
四月	「チャレンジ」
五月	「さかのぼる」
六月	「テレビ」
七月	「大空間」
八月	「無」
九月	「こだわり」
十月	「信念」
十一月	「探る」
十二月	「自制する」
一年最終	「勇氣を探す」
二年	
一月	「悩むこと」
二月	「本気でぶつかること」
三月	「この世界の片隅を大切に」
四月	「主体性」
五月	「客観性」
六月	「ルーティーン」
七月	「スマホとの向き合い方」
八月	「詩に触れる」
九月	「破壊する」
十月	「想いを再生する」
十一月	「夢を目に触れるようにする」
十二月	「アナログ」
一年最終	「きっかけ」
二年最終	「一度諦める」
	「失敗の感情で終わらない」

二年

四月	「思うだけじゃ駄目」
五月	「目先の失敗に気付く」
六月	「いつか報われる」
七月	「いつもと違う努力」
八月	「してやりたい」
九月	「ごめんなきい」
十月	「プリテンド pretend」

「朱に交われば朱くなる」と言う言葉があります。一方で「朱に交わっても朱くならない」という生き方もあります。ただ、この生き方は歳を重ねると大変しんどい生き方だとつくづく感じます。それでも、自分の天秤で「今のしんどさ」と「今まで自分を抑えることからのしんどさ」を、今になって感じることはできます。なので、後悔はこれっぽっちもないのですが、いろんな意味で「プリテンド」できる能力も、生きていく上では必要かと思うようになりました。

皆さんは、これから長い長い人生の中が待っています。「上手な生き方」と言う言葉が適切であるかは人によって違うと思いますが、コミュニケーションという意味では、とても重要なのだろうと強く感じます。

まあ、今更かな。どうぞ皆さん、この先の豊かな人生のために、一つの処世術と考えることも良いのではと思います。今月の勧めにしてみました。

朝の風景

新しい学校名もようやく・・・。後は新しい学校に対する想いを積み重ねていくだけです。学校では現在、統合の記念というわけではないのでしようが、講堂(講義棟と言っべきか)の建築が進行しています。その中で、朝に学年の階の窓を開けている際に見える、私が気付いたことを是非お伝えしたいかと思えます。

それは、朝七時を前後して毎日見られる風景なのですが。

一 すでに西門は開いており、警備員がスタンバイされている。私ともいづもにこやかな顔で挨拶を交わし、お陰で今日一日頑張ろうという気にさせてもらえる。

二 現場では、おそらく現場責任者の方と思うが、足場沿いを歩きながら作業現場をのぞき込んで、指差し確認をしている姿を繰り返し見る

三 現場の様子もさることながら、用具や資材等の状況や個数の確認を一番にされている

工事現場ではたわいもない風景なのかもしれませんが、本当なら私たちの日常で一番大切にしないといけないことではないかと、毎朝その風景を眺めている今日この頃です。

今の自分

先月は自分の心の支えとして、「何度でも」を紹介しました。が、裏を返せば、「何度でも」を覚悟しなければならぬことが、人生にはとてつもなく多いと言っこともかもしれません。だから、このフレーズが心に響くのかもしれません。

二期もはや一ヶ月。上記の題にもあるように、自分自身に対して正直、勇気を振り絞らせることで日常が成り立つ毎日です。

先月後半からは、こんな唄が頭に渦巻いています。二曲あるのですが・・・。

(生徒達の様子を見ていると)

探し物は何ですか 見つけにくいものですか

靴の中も 机の中も

探したけれど見つからないのに

まだまだ探す気ですか

それより 僕と踊りませんか

夢の中へ夢の中へ 行ってみたいと思いませんか

Fu Fu Fu Fu Fu Fu Fu Fu Fu Fu Fu さあ

生徒達から夢を感じないというわけでは、決してありません。

ただ、夢っていうのは良くも悪くも自分を鍛え、納得をさせ、喜び、怒り、哀しき、悔しき、そして諦めの悪さを与えてくれるものなのだけれどなあ、と、さらに感じるこの一ヶ月でした。

そう思いつつも、そう思えば思うほど頭にこびりついた唄が、もう一曲の次の歌です。

あなたは虹色の未来を語ったけど
今の現在を見なかった
そして過去は 朝つゆのひとしずく
てのひらで振りほらい 辛い顔した

目覚めて灰色の空を憎みながら
今日は今日で流されて
そして夢は たれこめた低い空
ひとすじの光追い 苦い顔した

明日になれば 明日になれば
あなたは口ぐせのように言うけれど
その日その日の すれすれ暮らし
心の窓には うつろな景色

私は思い出にどこかでしばられて
今日は今日で流れても
きつと夢は 雨だれのひとしずく
てのひらをかすめても 嘆いたりしない

(中略)

明日になれば 明日になれば
あなたは口ぐせのように言うけれど
その日その日の すれすれ暮らし
私はいつでも 天使じゃないわ

九月終盤に、私の教員生活スタートの年に入学してきた卒業生から、高校三年生の子どものことと相談がありました。

彼は、私を初めて近畿大会に導いてくれた生徒で、一年後輩で私を初めて全国大会に導いてくれた生徒に、叱咤激励、勇気、精神的支えとなつて尽力してくれた卒業生です。

彼自身は、見た目真面目でしたが、入学以来、目の届かない場所では練習をサボり、実は自動二輪の

免許を無断で取得、ということも乗りまくっていただいたのでしようが、卒業式に次のように告白をしてくれました。

「学年が上がるにつれ、自分がしてしまった事実を背負うことがこんなに苦しいのだと、思い続けた高校生活でした。」

未知のステージに立つ度に、自分がいたステージでのことが傷に感じるようになっていたみたいです。本当なら、彼が私を初めて全国大会に導いてくれた生徒かもしれませんが、直前の大会で自己新記録と引き換えに肘を壊してしまい、全国大会には進むことができませんでした。

紀三井寺の競技場で、自分もいるべき決勝をぼんやり見ている際に、人知れず涙を流してから、彼は本当に変わりました。

現役の進学は叶わず浪人しましたが、浪人中も後輩達とともに練習し、後輩が全国大会を決めたときには、今度は人目をはばからず自分事のように喜びの涙を流してくれました。

その彼が、「我が子の姿に自分の高校時代の甘さ、優柔不断さを重ねてしまいました」と。

彼には社会人となつてからも良く助けてもらい、良くしてもらいました。彼の名誉のためにも

その時代が今に生きている

目先の成功体験にかかわらず、「いつか」につながる体験を、彼の子どものさんにもさせてやってほしいと伝えました。

きっかけは、「いつ」「どこで」出会うかは分かりません。

皆さんも、そんなきっかけに出会います。見落とすことがないように、自分をしっかりと鍛えてほしいと思います。